

# ストック

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培	□			○ ———— ▽ ———— ⊙ ———— □								

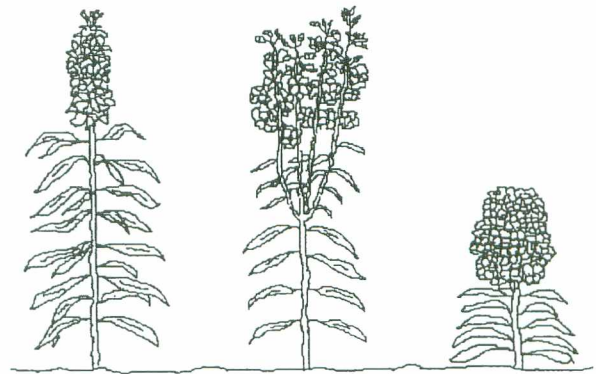
ヨーロッパ地中海沿岸原産のアブラナ科の秋まき1年草で別名アラセイトウと呼ばれます。甘い香りを漂わせ長い花穂にぎっしりと花をつけるストックは花色が豊富なこととあいまって鉢やプランターに植えると豪華な雰囲気醸し出してくれます。花言葉は豊かな愛、永遠の美です。

## 特性と品種

本来は秋にタネをまき、葉が4~7枚に成長した株が涼温期を経験した後、春に開花する性質をもった草花ですが、今では品種改良によって花をつけるのに低温を必要としない品種も出てきています。(極早生種では23~25℃でOK)。

栽培には日当たりが良く、乾燥気味で肥えた土壤が適しています。

品種は枝分かれの有無によって大別されます。1本立ち(ノンブランチング)系は草丈60~80cmで脇芽を出さず、切り花用として栽培されます。分枝系は草丈15~20cmの矮性種から、50~70cmの高性種まであり、主に花壇用として用いられます。ここでは冬の花壇にも利用できる極早生矮性種(ピグミー、キスミー、ワイン、ワイなど)の育て方について説明します。



無分枝系

分枝系

矮性種

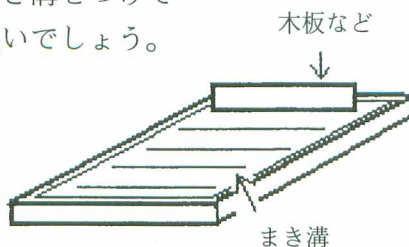
## 種まき

あらめの土を箱の底に入れ、排水を良くしてしておく。

用土…ピートモスとパーライトを1対1の割合で混合したもの。

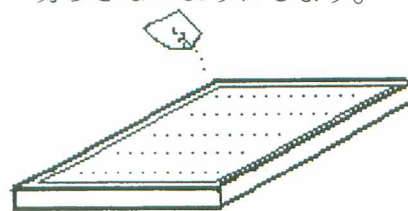
### \*すじまきの方法

あらかじめ右図のようにし、まき溝をつけておくと良いでしょう。



3~4cm間隔で列をつくりまします。

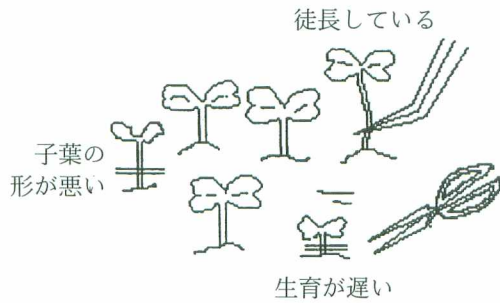
育苗箱にすじまきした後はいすく覆土し、雨にあてず、水を切らさないようにします。



風通しの良い日陰に置き、発芽が揃ったら強い光にならしていきます。

間引き

\* 間引く苗

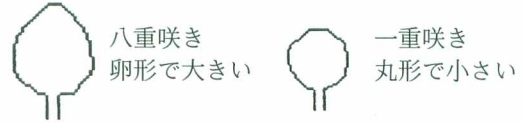


こみあっているところを間引きます。間引く間隔は葉と葉がふれあう程度にします。上の図のようにはさみやピンセットを使うと上手く間引けます。

\* 八重鑑別

ストックの種子には一重咲きのものと八重咲きのものが半分ずつ混じっています。(90%以上が八重咲きとなる品種もある)。一重咲きは見栄えがしないので間引く対象となります。

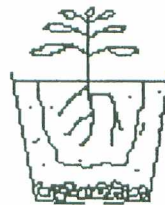
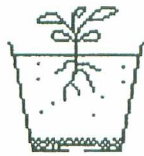
子葉の形



子葉の形以外にも八重咲きのものには発芽が早い、葉の色がうすい、生育が盛んであるなどの特徴があります。

移植

本葉2枚で3号ポットにはちあげします。



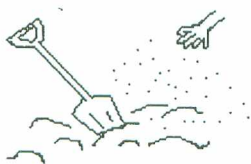
約1ヶ月後に本葉が7~8枚になったら、4号ポットに同じ要領で移植します。

移植の際は根が切れないように注意します。移植後4~5日は日陰におき徐々に強い光に慣らします。

用土…赤玉土：ピートモス 1：1  
鉢底にはゴロ土を入れておきます。

移植後には各ポットにひとつまみ(2~3g)緩行性肥料をおきます。

土づくり



• 植付け2週間前  
土の表面がうっすらと白くなる程度に石灰をまき、よく耕します。

• 植付け1週間前  
腐葉土や堆肥などを施し、よくすき込みます。



元肥として化成肥料を施します。(80g/㎡)。

定植

蕾が大きくなった頃にプランターや花壇に定植します。

植付け場所には日当たり、水はけが良く、霜の当たらないところを選びます。

15~20cmの間隔で植え付けます。

